



第82号
平成19年9月

子育て施設課
電話 0823-25-3144

感染症シリーズ2

【 麻疹と風疹 】

麻疹（はしか）



病原体

麻疹ウイルスによる全身感染症です。

感染経路

空気（飛沫核）感染で、ウイルスは上気道の粘膜から入り“のど”の局所リンパ節で増えた後、血液で増殖します。

主症状

血液で抗体が出来始めたころからアレルギー反応として紅斑が出ます。ウイルスはカタル期（発疹が出る前のくしゃみ・鼻水・目やに等が出る時期）から発疹出現後6日頃までのどに認められます。

ウイルス感染10日後から発熱が始まり、続いてコプリック斑（口の粘膜疹）が出現します。発熱が2～3日続いてから高熱とともに発疹が認められます。

発疹は、3～4日で色素沈着を残して消えてゆきます。

合併症

麻疹ウイルス感染は、免疫機能を低下させるため感染しやすくなり、肺炎や中耳炎の合併症が多く見られます。脳炎は1,000人に2人、亜急性硬化性全脳炎は、48,000人に1人と報告されています。

予 防

予防には、予防接種とガンマグロブリン投与があります。

予防接種は接種により95%以上の方が免疫を獲得します。しかし、早い人は数年で抗体が低下するため接種してもかかってしまう例がみられます。そのため、昨年度より2回接種に変更されました。

予防接種の副反応は、発熱・微熱（約15%）、接種部位の腫れ（5%）、けいれん（0.08%）、じんま疹（2%）、発疹（8%）がみられますが、いずれも軽症です。まれに脳炎・脳症がみられます。しかし、ワクチン接種後の脳炎・脳症の頻度は極めて少ない発症となっています。

アレルギーに関して、ゼラチンを含むワクチンは無くなりましたが、卵アレルギーに関して強いアレルギー反応を有する例では、接種前に皮内反応の実施

が推奨されています。

ガンマグロブリンは麻疹患者と接種後5日以内であれば、予防または症状を軽減できます。効果は3か月以内でそれ以降に改めて予防接種を行う必要があります。

ガンマグロブリンは血液製剤ですので、使用を希望される際は主治医から充分説明を受けてから行ってください。

登校基準

解熱後3日間は登所（園）は禁止されます。

風疹（三日はしか）

病原体

風疹ウイルスによる全身感染症です。



感染経路

飛沫感染です。

主症状

麻疹や水痘（水ぼうそう）より感染力は弱く潜伏期間は2～3週間と長いのが特徴です。

ゆ合傾向が少ない紅色斑丘疹（麻疹よりまばらで色素沈着を残さない）、発熱、などが主症状で、頸部や耳介後部・後頭部のリンパ節が腫れることもあります。年長児では関節炎を起こすことがしばしばみられます。

発疹や発熱からの診断は難しく、流行期でなければ抗体検査をしないと誤診することがあります。

合併症

血小板減少性紫斑病が3,000人に1人、脳炎が6,000人に1人の割合でみられています。まれに溶血性貧血もみられることがあります。

妊娠初期の妊婦が風疹ウイルスに感染すると胎児に感染して先天性風疹症候群（難聴、先天性心疾患、白内障や網膜症）が出生する場合があります。

予防接種

予防接種により接種を受けた人の95%で抗体上昇を示します。抗体の上昇は約20年近く持続するといわれていますが、それ以上の効果を期待する場合は追加接種が必要です。そのため麻疹と同様に昨年より2回接種に変更されました。



昨年からは麻疹・風疹混合ワクチンとなり、接種年齢も一期が1～2歳未満。二期は小学校入学前の一年間となりました。忘れないように母子手帳を確認しましょう。